

## 1. 日本におけるウミガメ関連情報のとりまとめ

### 1-1 2016 年シーズン（2015 年 10 月～2016 年 9 月）の日本の産卵情報の収集

全国の機関・個人より、ウミガメ類の上陸・産卵情報をいただいた。アカウミガメは 11650 回の上陸、6254 回の産卵が確認された。また、アオウミガメは 2840 回の上陸、1804 回の産卵が、タイマイは 15 回の上陸、10 回の産卵が確認された。また、種の特定できなかった上陸回数は 59 回、産卵回数は 25 回であった。

### 1-2 2016 年シーズンの漂着死体情報の収集

期間中、ウミガメ協議会事務局に通報を受けた漂着死体は 426 件であった。内訳はアカウミガメ 198 個体、アオウミガメ 193 個体、タイマイ 13 個体、オサガメ 3 個体、交雑種と思われるもの 1 個体、種不明 18 個体であった。

### 1-3 2016 年シーズンの標識調査

2015 年 10 月～2016 年 9 月の間に、14 の個人・団体・機関に 4020 個の標識を配布した。

### 1-4 第 26 回日本ウミガメ会議（一宮会議）の開催

2015 年 11 月 27 日から 11 月 29 日にかけて標識会議を千葉県一宮町で開催した。参加者はのべ 1200 人を越え盛会であった。大会に先立ち、26 日には一宮町小学校 4-6 年生（286 名）、一宮町中学校 1-3 年生（313 名）、東浪見小学校 1-6 年生（124 名）、一宮保育所（77 名）に講師を派遣し、ウミガメ出前講座を実施した。大会初日には大塚実記念講演として、地元の秋山章男先生（九十九里浜自然誌博物館）に「南九十九里一宮・渚の自然を探って 40 年」と題して講演いただいた。大会 2 日目午前の千葉県内の活動の紹介のセッションで地元から 10 件の口頭発表があったほか、12 件の口頭発表、13 件のポスター発表や、上記 1-1 から 1-3 の報告・議論を行った。



### 1-5 第 27 回日本ウミガメ会議（室戸大会）の準備

2015 年 11 月より室戸調査基地を通じ室戸市役所と協議・調整を重ねたうえで、2016 年 1 月に室戸市役所を事務局とした「第 27 回日本ウミガメ会議室戸大会実行委員会」を設置し、定期的に行う委員会を開催しながら、会議の内容について協議した。



### 1-6 平成 27・28 年度 徳島県 自然環境協力員育成（委託）

本事業は、徳島県内のアカウミガメ上陸・産卵調査等に関わる人材育成事業で、平成 16 年以降継続受託している。県内で募集した協力調査員（約 15 名）を対象に産卵シーズンに先立ち調査手法や関連情報に関する講習会を実施したうえで、個別の砂浜の調査結果に関して逐次報告を受け、それをとりまとめ、産卵シーズン後にフィードバックする報告会を実施している。本事業年度には、2015 年 11 月 14 日に報告会、2016 年 5 月 21 日に講習会を、それぞれ美波町日和佐公民館で実施した。

### 1-7 環境省モニタリングサイト 1000 ウミガメ調査（委託）

本事業は、国内の様々な生態系に忍び寄り変化をいち早く察知するべく、環境省が多くの調査主体の協力により実施している包括的生態系モニタリング事業で、当会はこのうちウミガメの上陸産卵モニタリングと関連情報の調査とりまとめ等を 2004 年から担当している。地域性や産卵規模、継続性などの観点から選ばれた約 40 箇所について、上陸産卵状況に加え、砂の堆積や温度などの環境について独自の調査を実施し、地域ごとに整理・分析したほか、2016 年 2 月 17 日にみなべ町第二庁舎にて紀伊半島地域情報交換会を、2 月 20 日に大宜味村農村環境改善センターにて沖縄地域情報交換会を、それぞれ開催し、各地域の関係者とともにこれまでの調査研究や保護活動の現状を整理するとともに、侵食や食害など各地の状況や懸念される様々な問題について共有した。さらに、データ公開を前提とした調査サイト公募制を柱とした新体制への制度見直しを検討するとともに、関係者への意見徴収を実施した。



## 2 国際的な活動

### 2-1 第 36 回国際ウミガメシンポジウムへの参加

2016年2月29日から4日までペルーの首都リマ市にて開催された標記会議に松沢が出席し、情報収集および意見交換を行った。シンポジウム開催中には、松沢が世話人をつとめる第5回東アジア地域会合が開催され、日本、台湾、米国などから集まった約20名が、発表および情報意見交換を行った。国際ウミガメ学会の次期会長に松沢が選出され、2018年1月から4月までの間に、第38回国際ウミガメシンポジウムを日本で開催することとなった。



### 2-2 在日米軍基地における産卵調査およびアセスメント（委託）

在日米軍からの委託事業として、沖縄県読谷村の施設内でウミガメの保護事業を実施した。本事業は2008年からの継続である。2014年は4月から8月まで週4日間の頻度で砂浜を踏査し、卵の探索と移植、脱出とふ化率ならびに砂中温度などの周辺環境の調査を実施した。若月・亀田が毎回交替で現地に入り、琉球大学ちゅらがーミーを有償アシスタントとした。

### 2-3 日米墨3か国北太平洋アカウミガメ回復計画（委託）

米国政府が国内法である絶滅種保護法に基づきアカウミガメ北太平洋個体群の回復計画の見直しをするにあたり、繁殖地である我が国と成長海域にあたるメキシコ両政府当局へ3か国共同での回復計画作成を打診したことを受けて、1月27・28日に米国サンディエゴ市で開催された事業実施体制等を協議する会合に、専門家として松沢が出席した。さらに、回復計画素案の作成チームに松沢が入り、日本における保全制度、保全調査研究、個体群への脅威等に関する情報整理・執筆を担当した（環境省委託事業）。回復計画素案は、2018年の第38回国際ウミガメシンポジウム（日本開催）でお披露目紹介できるよう、2017年度内の完成を目指す。

### 2-4 在日米国大使・国務次官との意見交換

4月28日、伊勢志摩サミットに先立つ関連閣僚会合のために来日したキャサリン・ノバリー米国務次官（経済成長・エネルギー・環境担当）を囲む米国大使公邸での朝食会に招待され、海洋大型動物の保全に関わるNGO代表として、日本におけるウミガメ調査研究保全の現状と米国とのこれまでの連携および今後の展望について意見を述べた。

## 3 個別プロジェクト

### 3-1 みなべ町千里浜のウミガメ保護調査（補助）

6/10から9/10まで、みなべ町教育委員会の支援を受けて千里観音境内に開設する調査基地に常駐し、みなべウミガメ研究班および青年クラブみなべと協働で、千里浜における夜間パトロール調査を実施し、産卵メスの個体識別および産卵巣へ食害対策用の竹網・金籠の設置を行い、随時、孵化率調査を実施した。また、この期間を通じて、周辺の砂浜（岩代浜、小目津浜、南部浜）での痕跡調査を屋間に実施した。なお、食害対策および孵化調査については、株式会社ライオン大阪工場のボランティアの皆様の協力を得た。調査期間中には、帝京科学大学、岡山理科大学、大阪ECO海洋動物専門学校の臨海実習を受け入れ、みなべ町教育委員会の観察許可を得た1000名以上の観察者の誘導・観察指導を行った。

### 3-2 紀宝町道の駅ウミガメ公園・ウミガメふれあいパークの生物飼育管理等（委託）

2007年より、紀宝町道の駅ウミガメ公園における「ウミガメふれあいパーク」の管理・生物展示、普及啓発活動、営業活動支援を実施している。本事業年度は、特に循環ろ過設備の設計時の構造上不備を検出し、現実的な改善策を提案するとともに、近隣の定置網で混獲されるウミガメの収容・リハビリ・放流プログラムを展開した。

### 3-3 鹿児島県野間池におけるウミガメ類混獲調査

鹿児島県南さつま市野間池に設置されているしろせ定置網の所有者宮内叶氏（当会前理事）の協力の下、操業時に混獲が確認されたウミガメについて、種同定、甲長甲幅等の体サイズ計測を行なった後、左右前肢に標識を装着して放流した。2015年10月から2016年9月までの1年間に、127個体（アカウミガメ17個体、アオウミガメ109個体、タイマイ1個体）が調査対象となった。

### 3-4 ウミガメの混獲死低減のための技術開発プロジェクト（委託）

本プロジェクトは須磨海浜水族園、在メキシコNGO grupo tortuguero、漁業者、他機関の研究者との協働で行われて来たもので、現在は水産庁の委託事業として発展的に継続しているものである。本事業年度の実験は2015年9月14-18日にかけて徳島県阿南市椿泊の底層定置網での実地試験を実施した。3種4パターンの型を操業中の定置網に順次設置し、それぞれ入網した魚群の保持率について検証した。



### 3-5 アースウォッチ・ジャパン種子島のアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として屋久島に次ぐ規模の産卵を誇る種子島において、はじめて組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するものである。主な目的は、屋久島や宮崎、みなべなど主要産卵地における回帰率の低さが種子島への産卵地の変更では説明できないことを確認し、間接的に、産卵後のメスの死亡率の高さを示すことにある。実施にあたり、地元タートルクルーと連携し、2015年から三菱重工グループの支援およびアースウォッチのボランティアの協力を受けた。本事業年度は、産卵期に2泊3日の調査を3回、孵化脱出期に2泊3日の調査を1回、それぞれ実施した。過去2年間で識別したのは60個体で、このうち既に標識のついていたものはわずか2個体だけで、種子島の定置網の混獲個体と、屋久島での同シーズン中の産卵個体であった。



### 3-6 アースウォッチ・ジャパン紀州みなべのアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として本州最大を誇る和歌山県みなべ町において、千里浜に加えて、周辺の砂浜でも組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するもので、これにより同一個体が町内の複数の砂浜を一体的に利用していることを示し、シーズン内の1個体あたりの産卵回数など基礎的な産卵生態を明らかにすることを目的とする。実施にあたり、地元みなべウミガメ研究班と連携し、日本郵船グループの支援およびアースウォッチのボランティアの協力を受けた。本事業年度は、産卵期に2泊3日の調査を2回実施した。



### 3-7 日本アカウミガメの産卵と砂浜の現状改訂版出版（助成）

日本ウミガメ協議会編集の「日本のアカウミガメの産卵と砂浜環境の現状」の出版から既に16年が経ち、その後、南西諸島を含め、多くの新しい砂浜や産卵の情報各地から出てきていることを鑑み、各調査主体に改めて各地のアカウミガメの現状について分筆してもらい、それをとりまとめ、書籍として編集出版すべく、原稿を依頼した。なお、本事業に際し、石原理事の協力により、米国NFWFより助成を受け、編集には水野監事に協力いただいている。

## 4 情報発信・教育啓発

（※付属施設の活動については、「5」に記載）

### 4-1 講演活動

2015.11.30. 於：アースウォッチ・ジャパン事務局  
 2015.12.09. 於：ライオン大阪工場  
 2016.02.11. 於：三菱みなとみらい技術館 理科教室  
 2016.02.27. 於：京都大学理学研究科セミナーハウス 第1回水族館大学  
 2016.07.08 於：みなべ町千里観音 キッズラボ サイエンス合宿  
 2016.07.09. 於：みなべ町千里観音 帝京科学大学 サルカメ実習  
 2016.07.13. 於：国民宿舎紀州路みなべ 近畿大学ウミガメ観察会事前学習

### 4-2 学会・論文等発表

Matsuzawa, Y. 2016. Update of sea turtles in Japan. The Fifth East Asia Regional Meeting at the 36th Annual Symposium on Sea Turtle Biology and Conservation March 1, 2016.

松沢慶将. ウミガメを保護するための活動の紹介. 市民フォーラム, 第27回廃棄物資源循環学会. 和歌山大学. 2016. 9. 27.

Matsuzawa, Y., N. Kamezaki, T. Ishihara, K. Omuta, H. Takeshita, K. Goto, T. Arata, H. Honda, K. Kameda, Y. Kashima, M. Kayo, I. Kawazu, J. Kodama, Y. Kumazawa, K. Kuroyanagi, K. Mizobuchi, K. Mizuno, K. Oki, K. K. Watanabe, A. Yamamoto, Y. Yamashita, T. Yamato, T. Hamabata, A. Ishizaki, P. H. Dutton. 2016. Fine-scale genetic population structure of loggerhead turtles in the Northwest Pacific. *Endang Species Res* 30: 83-93.

Peckham, S.H., D. Maldonado, Y. Matsuzawa, K. Dean, I.K. Kelly. Connecting fishers to conserve a transpacific ambassador: A trilateral fisheries learning exchange. *Marine Policy In Press*.

### 4-3 普及啓発

徳島県アカウミガメ上陸産卵調査報告会を開催 2015/11/14 徳島  
紀伊半島地区ウミガメ情報交換会を開催 2016/2/17 みなべ町  
沖縄地区ウミガメ情報交換会を開催 2016/2/20 大宜味  
徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を開催 2016/05/21 徳島

### 4-4 その他

#### (1) 広報・メディア協力・監修

10月 科学雑誌「ニュートン」 「カメ特集」 協力  
10月 映画「サミーとシェリー 七つの海の大冒険」国内広報協力  
12月 テレビ朝日「林修の今でしょ講座 バイオロギング」監修  
01月 宝酒造 環境活動ホームページ 特集 取材協力  
02月 科学雑誌「別冊ニュートン」「ふしぎ動物図鑑」協力  
07月 雑誌「週刊新潮」 31 夏季特大号巻頭カラー 協力  
ほか、TV、新聞等報道取材協力多数



#### (2) 情報の発信・印刷物の発行等

##### ●機関誌「マリンタートル」の発行

日本ウミガメ協議会の活動を広く周知するために、機関誌「マリンタートル」第20号(10/31)と21号(4/30)を発行した。



##### ●ウミガメ速報の配信 計16回

ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックスなどを利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。

##### ●「うみがめニュースレター」の発行支援

うみがめニュースレター編集委員会(委員長:石原孝、編集委員:平間茂知・河津勲・亀田和成・岡本慶、顧問:亀崎直樹)が発行している情報誌「うみがめニュースレター」の発行経費(印刷・発送)を全額支援たうえて、さらに、亀田が発送等の実務、宮原が原稿のデザイン・編集補助を行った。事業年度中にNo.103、No.104の2号を発行した。



#### (3) 卒論指導

藤田健登(大阪府立大学)・伊藤澄香(名城大学)

#### (4) インターシップの受け入れ

岡崎鮎美(大阪海洋動植物専門学校卒業生) / 藤田健登・佐原大理(大阪府立大学) ほか

#### (5) 専門学校講義担当

大阪ECO 海洋動物専門学校にて、週5コマの講義(博物館研究・海洋生態・水族館就職対策)を担当

## 5 付属施設の活動

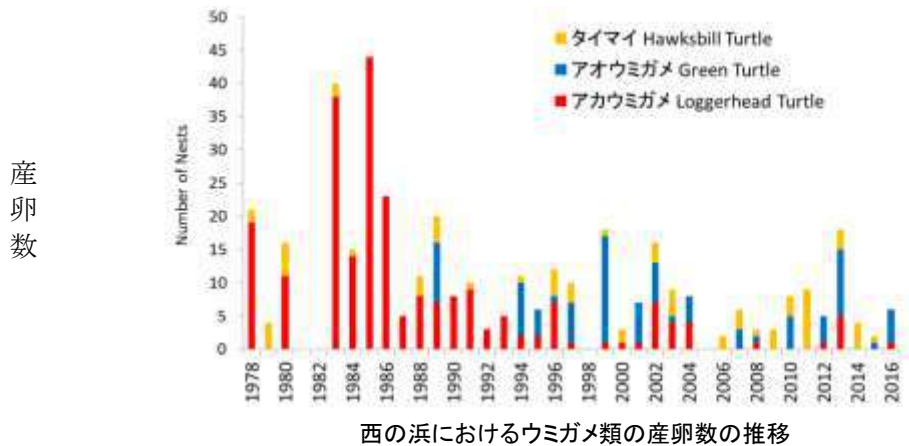
### 5-1 黒島研究所の活動

#### I. 調査・研究活動

##### ●ウミガメ類の上陸産卵調査（主に黒島西の浜、西表島南岸のウブ浜とサザレ浜）

黒島西の浜におけるウミガメ類の産卵調査はほぼ毎日実施された。アカウミガメ上陸 1 回そのうち産卵 1 回、アオウミガメ上陸 12 回そのうち産卵 5 回であった。今年度はタイマイの産卵は確認できなかった。1978 年からのウミガメ類の産卵上陸数を図に示す。その他に、研究所の前でアカウミガメの産卵 1 回が確認された。

西表島の南岸のウブ浜とサザレ浜では 8 月 16 日に 1 回の調査を実施した。その結果、アオウミガメ上陸回 90 そのうち産卵 68 回であった。なお、イノシシによるウミガメ卵の捕食は 66 巣であり、ほとんどの産卵巣が捕食されていた。



2016 年 西表島のウブ浜とサザレ浜におけるウミガメ類の上陸・産卵状況

地点名	上陸跡数	産卵跡数	アカウミガメ		アオウミガメ		不明	
			上陸	産卵	上陸	産卵	上陸	産卵
ウブ浜	43	32	0	0	35	28	0	0
サザレ浜	66	32	0	0	55	44	0	0

##### ●ウミガメ類の標識放流調査

2015 年 10 月から 2016 年 9 月までにアオウミガメ 102 頭、タイマイ 8 頭の合計 110 頭を標識放流した。内訳は、産卵個体はアオウミガメ 1 頭、人工飼育個体はタイマイ 5 頭、刺網による捕獲調査はアオ 61 頭とタイマイ 3 頭、漁師からの買取はアオウミガメ 40 頭であった。

#### 助成・委託事業

##### ●新石垣空港に隣接する砂浜におけるウミガメ類の上陸産卵状況(いであ株式会社 委託)

2016 年 5 月から 9 月まで、新空港前の砂浜におけるウミガメの産卵状況を調査した。

##### ●ウミガメ放流体験をとおした絶滅危惧種の保護と啓発活動

ウミガメ勉強会の開催、2016 年夏の期間、年末年始も実施予定（継続中）。

##### ●沖縄島の人工海浜におけるウミガメの産卵状況調査（沖縄しまたて協会）

6 月～8 月にかけて沖縄島の人工海浜 40 か所におけるウミガメ類の産卵状況を調査した。

##### ●平成 27 年 ウミガメ類の生態調査を通じた自然環境保全への啓発活動（w-bridge）

アルゴス調査をウミガメ勉強会の開催（2015 年年末年始、2016 年春休み、GW）を実施した。



## II. 利用研究者・学生

2015 年

10 月：東京大学 1 名（ウミガメの衛星追跡）

2016 年

2・3 月

研究者：東京大学 1 名（研究・ナマコ実験）、国立民族博物館 1 名（研究・言語学）、琉球大 1 名（博士論文）、酪農学園大 2 名（ウミガメ血液、性判別）、社会人 2 名（クラゲ調査）

研修生：海洋大 2 名、甲南大 1 名、琉大 1 名、岡山理大 1 名、日大 1 名、水産大 1 名

7・8・9 月

研究者：東京大学 1 名（研究・ナマコ実験）、国立民族博物館 1 名（研究・言語学）、琉球大 1 名（博士論文）、酪農学園大 2 名（ウミガメ血液、性判別）、環境省 1 名（ウミガメ）

研修生：海洋大 10 名（研修）、三重大 5 名 琉球大 4 名、名城大 2 名、東海大 1 名、福岡保健大 1 名、麻布大 1 名、大阪大 1 名、九州の専門学校 1 名、社会人 1 名  
学芸員実習：三重大 1 名、北里大 1 名、東京農 1 大

利用者合計 40 名（研究者 7 名・研修 30 名・学芸 3 名）

## III. 団体の受け入れ

2015 年：11 月共栄学園修学旅行、

2016 年：3 月みのう自由が丘学園修学旅行、

4 月石垣市内の遠足 3 件、

8 月韓国 World Changer.香港 YMCA

この他、視察の受入が 7 回、HIS と JTB のツアー。

## IV. 新聞掲載・テレビ出演等

2015 年 10 月 八重山観光需要ロケ、

2016 年 5 月 NHK ロケ

## V. その他

入館者数 9,597 人（2015 年 10 月～2013 年 9 月）

- ウミガメ勉強会 冬休み、春休み、夏休み、GW の連休時に毎日
- ナイトガイド随時
- 室戸ウミガメ会議実行委員会・椎名小学校  
1・2 月に 1 回若月が室戸へ
- ホームページ更新 41 回
- ウミガメ速報、マリンターナー、うみがめニュースレター発行

2015 年 10 月 ビジターセンター展示打合せ、

ドローレス・プラン在沖領事視察

2016 年 1 月 国立天文台 宮地所長来所、モニ 1000 検討会、

沖縄カメ宴会

5 月 沖縄県博物館協会、W-BRIDGE 報告会

6 月 動物取扱業・特定動物の更新手続き、ハワイウミガメ研修

8 月 ウミガメ協臨時理事会

## VI. 現在実施中のプロジェクト

●ウミガメの血液中の元素分析および性比の確認（酪農学園大と共同、来期は大成建設の助成を受ける）



韓国の団体を受け入れ



連休中はウミガメ勉強会を毎日実施



学生。マンタタッチ



ラグーンのサメと海ブドウまりも  
(サイト 41 回更新)



内視鏡による性判別の実施

(若月・亀田)

## 5-2 室戸調査基地の活動

### I. 調査・研究活動

#### ●ウミガメ類の通常調査（高岡・三津・椎名混獲個体の計測標識放流、漂着個体の計測、上陸痕跡確認）

- ・大敷網 アカウミガメ 272 アオウミガメ 99 クロウミガメ 1
- ・イセエビ刺網 アオウミガメ 2
- ・漂着 アカウミガメ 5 アオウミガメ 2 タイマイ 1
- ・上陸 アカウミガメ 8
- ・産卵 アカウミガメ 2

#### ●東洋町白浜海岸の調査

6/2 と 6/22 に東洋町白浜海岸（海水浴場）でアカウミガメ産卵。どちらとも波打ち際に産卵していたことから移植を実施。温度ロガー埋設後、高知大学の齊藤先生の指導のもと、高温対策の日よけネット設置を行い、脱出予定期間には夜間パトロールを実施。また、地元役場に働きかけ、地域住民への普及活動として、高知大の齊藤先生による講演会を実施し、東洋町白浜海岸の清掃とウミガメの放流会をおこなった（新聞・テレビ取材あり）。なお、移植および高温対策については、生見海岸調査員の加島祐二さんと東洋町民の協力を得た。



### II. 利用研究者・学生

2016 年 6 月 1 名 大阪 ECO 動物海洋専門学校（研修）

### III. 団体の受け入れ

2016/4/29 室戸ユネスコ世界ジオパーク  
ウミガメ勉強会&室戸調査基地の見学  
2016/8/19 四万十高等学校  
ウミガメ勉強会&室戸調査基地の見学



### IV. 新聞掲載・テレビ出演等

- 6 月 ウミガメ保護個体 2 頭を放流（高知さんさんテレビ）
- 7 月 日本ウミガメ協議会室戸基地での活動紹介（高知テレビ）  
ウミガメ生態を学ぶ体験型講演会（高知新聞）



### V. その他

講演・発表

ウミガメについて、2016 年 8 月 21 日 南国市ふれあい館

イベント・協力

- 4 月 愛媛総合科学博物館視察  
高知県ウミガメ保護活動情報交換会参加
- 5 月 室戸市観光協会の通常総会参加
- 6 月 高知ミュージアムネットワーク総会・情報交換会参加  
徳島県の産卵上陸講習会参加
- 7 月 元小学校にてウミガメについての出前授業
- 8 月 室戸ユネスコ世界ジオパークに標本展示協力  
愛媛総合科学博物館に標本展示協力



（平井・田中）



## 6 理事会その他の役員会の開催状況

### 6-1 平成 27 年度通常社員総会の開催

開催年月日：2015 年 11 月 28 日 15 時 00 分～17 時 00 分

開催場所：ホテル一宮シーサイドオーツカ

総正会員数：24 名

出席正会員数：会場 13 名（委任状出席者数 5 名）

第 1 号議案 平成 26 年度事業報告、及び決算案  
議長が、議場に意見や質問を求めたところ、全員異議なく、承認された。

第 2 号議案 平成 27 年度事業計画、及び予算案  
議長が、議場に意見や質問を求めたところ、全員異議なく、承認された。

第 3 号議案 来年度のウミガメ会議の開催地について  
議長が、議場に意見や質問を求めたところ、全員異議なく、承認された。

第 4 号議案 役員選挙の件  
本件について、事務局から選挙結果について報告があり、17 名が役員に選任され、後日就任承諾書の回答をもって選挙の終了をする旨が伝えられた。  
本議案について満場一致をもって、上記手続きの進行を図る旨が承認された。

第 5 号議案 会長・副会長選挙の件  
本件について、会場から引き続き会長に松沢慶将、副会長に平手康市との提案があり、議長が議場に意見や質問を求めたところ全員異議なく、承認された。

第 6 号議案 議事録署名人の選任の件  
議事録署名人について、議長から 2 名の指名があり、全員の承認により選任された。

以上をもってすべての議事を終了したので、議長は閉会を宣し 15 時 00 分散会した。

### 6-2 平成 27 年度理事会の開催

日時：2015 年 11 月 28 日

1. 職員の配置、2. 一宮会議における 1 議員による抗議、3. 日和佐ウミガメ館カレットの指定管理にむけた現状について報告された。その後、4. 会員の整理と 5. モニタリングサイト 1000 への方針が議論された。そして、定款の変更、会員を整理すること、モニタリングサイト 1000 は会員にアンケートを配布し意見聴衆をおこなうことが議決された。

### 6-3 臨時理事会の開催

日時：2016 年 7 月 31 日

主な議案は 1. モニタリングサイト 1000 の新体制と請負業務について、新体制の説明とモニタリングサイト 1000 を始めた経緯の説明を行った後、2. モニタリングサイト 1000 の参加可否についての議論を行い、各地の調査者にアンケートを配布し、始めた経緯等の説明をしたうえで参加を募ることが議決された。その後、3. 日和佐ウミガメ博物館カレットの運営委託（指定管理）について報告された。